

## 学会参加レポート

### 25<sup>th</sup> International Society for Neurochemistry Meeting に参加して

國澤 和生

(総合研究大学院大学 生命科学研究所 生理科学専攻 (生理学研究所 分子神経生理研究部門))

私は、幸いにも JSN からの travel award を受賞し、2015 年 8 月 23 日～27 日にオーストラリア・ケアンズで開催された 25th ISN Meeting に参加することができましたので、ここに学会レポートとして報告させていただきます。

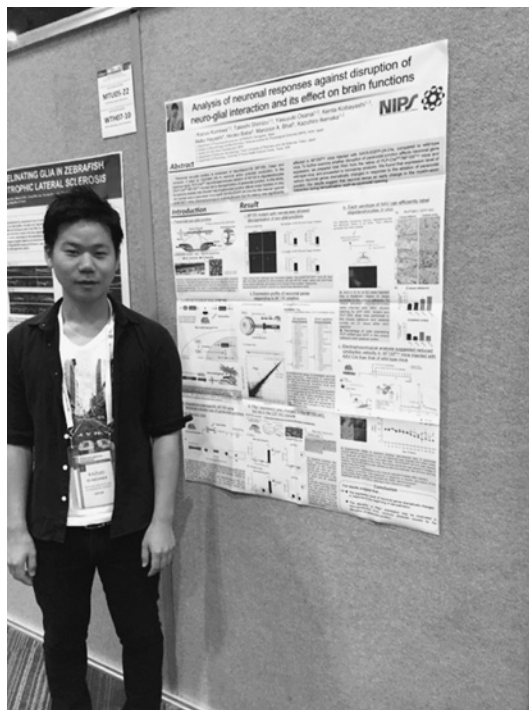
まず、研究者を目指している身としては非常に恥ずかしい話ですが、私は今までの人生で海外に 1 度しか行った事がありませんでした。なので、受賞時は「嬉しい！」と同時に「本当に海外で発表など出来るのか…」という不安を感じる部分の方が多かったかもしれません。しかしケアンズに行き、そして発表、様々な人との出会いを通じ、帰国した時にはその気持ちは大きく変わりました。今回このような経験をさせていただけた事を非常に感謝しています。

さて、出国時のケアンズはちょうど真冬に当たる時期でしたが、気温は 28 度前後と半袖で十分過ごせるほどの快適さでした。またリゾート地という事もあり、平日でも休暇を楽しむ人々で毎日が休日のような少しゆったりとした雰囲気を感じました。現地では日本からも多くの観光客が来ており、メイントリートでは国外から来た様々な国の人々が行き交っている様子でした。学会はケアンズ中心地にある Cairns Convention Center で行われ、新しく近代的な建物かつメインとなる会場は 1000 人以上が収容できる大きな会場でした。また、所々に休憩できるスペースもあり非常に快適に過ごすことができ、講演にも集中できる環境でした。学会初日はシンポジウムと reception party があり、ルームシェアしていた東京薬科大学の山崎礼二さんの誘いもあり一緒に party に参加しました。海外の party とはどんなものだろう、と不安ばかりの自分の考えは見事に打ち砕かれました。結論はこういった party に参加してすごく良かったし、絶対に参加すべきだという事です。このような party は毎晩開催されていたのですが、屋外で行われ開放的な雰囲気からか、少し前まで赤の他人だった外国人研究者ともすぐに打ち解けられ、多くの方とコミュニケーションを取れ、刺激的な話も聞く事ができました。また、翌日の夜には日本の若手研究者で集まり、同じく JSN からトラベルアワードを受賞した梶田さん、矢吹先生、古澤さんとも話すことができ、将来の研究生活について夜中まで熱く語り合いました。

本題の発表についてですが、私は「Analysis of neuronal responses against disruption of neuro-glial interaction and its effect on brain functions」というタイトルでポスター発表を行い、中枢神経系において脱髄の初期に生じる非常に軽微な異常であっても様々な遺伝子発現変化を招くことを報告しました。ポスター発表は演題番号で前半・後半に分かれていたにも関わらず、各グループで発表演題は 200 を越えており、海外学会が初めてだった私にとっては一つ一つポスターを見ていくのも大変だった覚えがあります。私は「Myelination and Demyelination」のセッションで発表したのですが、幸いな事に全ての時間を通して多くの方が興味を持って来聴してくださり、とても有意義な時間を過ごす事が出来ました。初めは、英語の不安からポスターを説明するので一杯一杯だったのが、たどたどしい英語をなん

とか繋ぎ合わせて相手に理解してもらったり、徐々に余裕ができディスカッションを行えるようになったのが自分でも分かった時には「やっぱり不安でも迷わず飛び込んでみることはとても大切なんだ」と切に感じました。特にそこでの一番の思い出としては、同じセッション内でメルボルン大学から来ていた博士課程のある学生とディスカッションを行えた事です。その学生とは年齢や実験技術に近い事もあり、「それを証明するには、その実験系より自分が用いたこの実験系の方が良いのでは」と提案を頂いたり、「この成果をもっと強調するには〇〇をした方が良いよ」など発表時間が終わった後もお互いのポスターを前にディスカッションを重ねました。最終的にはそのラボのポスも巻き込んで長時間話し合いが続き、終わった後には握手をして、次の学会で会った時はまたよろしく、と言って笑顔でお別れしました。今まで国内の学会にしか行った事がなかった私にとっては、「海外学会ってもしかして自分が思っていたより敷居が低いのかも…もっとチャンスがあれば積極的に行こう」と思えるようなとても思い出になる学会になりました。何かきっかけがなければ海外の研究者と交流することは出来ません。もしまだ機会や勇気がなくて今一歩踏み出せない、そんな学生がいたら、ぜひ思い切って一緒に経験を積んでいきましょう。

最後になりましたが、このような大変貴重な機会をくださった日本神経化学会員の皆様に深く御礼申し上げます。



ポスターの前にて（写真は本人）